雜言解

四

け	一丁	ゆ	廿六丁	ふ	二丁	め	廿八丁
こ	四丁	み	廿九丁	え	八丁	し	廿三丁
て	九丁	ひ	廿八丁	あ	十丁	も	四十丁
さ	二十丁	せ	四十二丁	き	廿五丁	す	四十三丁

ホ 2
4434
4

4
門イ利 4
號 1420
巻 4止
ホ2
4434
4

雅言解巻之四

東京　鈴木重嶺纂

計の部

万 あすあねばけるるひをそ手枕ちびすしあれバきひのそらのゆく

古 くくあぐらくよまくも惜しけまくかちれバこをそかなしみ思ふ

伊物白 ぬばハけあぶくるくんきくべとそ玉ぬくべを人ちりどを

伊物 くくそくをねたけこくあるわうそをとくのむすびんことをしぞ思ふ

代 そくのまぐものくけをなきぬるハくさもくまをたよそやくるん

け

。笥和名計食ヲ盛ル器ナリ、

。消ゑ、キエノ縁ケナリ、

ゲ 褻ムゲナド云ゲゲ、サウニト訳スベシネヨゲハ寝ヨサリウニナリ、

ケホ
○コトニ
○カクベツニ
○ケニノケハ清ミテヨムベシ

ゲホ
○マコトニ
○ナルホド
○物語ブミニハゲニコトワリ、ゲニトウナヅキテナドアリ、歌ニヨメリシハ古クハ見エズ、若葉トニ「ばふりまくゆふうちはひおく末ハ多ふいちドるき孤のちるる」ト云歌アレド、ケニトスミテ、コトニノ意トシテモ聞ユル歌ナリ、ノモゲニトヨミ来リタレド、見シ夢ヲノ方ハケニゾトスミテモ聞ユル歌ナリ、

ケぢうき
○ケギカキノケハ、文章ニケトホシケニクキケダカシナド云フケニテ戴ナルベシ、

ケだし
○蓋ヲ訓ムモシト云ニ

古 わすれうんと思てのつゆよりけよまろぞ恋しき
日 夕されハ君よりけよゆゆれどひうゝねぞやへ人のつれふき
新古 見てゝ爰をわするゝ間いかゝれぐ衣のねぎめハ多るそかあしき
月 月をこそあどまくれのこほとゝいんけよひうゝ出うかうゝ
は 今いとやゝ山をつゞくをゝきたけだらをとわふまきらをゝ
ふ すぎくのゐちをとくれバ多ゐうゝよその夕ぢくをゝちゐを
万 いまゝつまらうんをいちゝきたけゞゝやふをゝわがらふるゞを

近シ、

けつ
○ケツハ消ス、ケタヌハ消サヌ、俗言ハサシスセ、雅言ハタチツテトハタラクヘ、

けづる
○カミノ毛ニカケテ云フ時ハ、掛ケヅルベ、

けしき
○景色ニテ、フミコトバヘ、歌ニハ好マシカラズ、故ニ古キ歌ニハ見

日 山やハ多ぐゝあるもわぎるふゞゆひんふをを人とゞめやを
ら らちをるはやるゝん流をとうゝはをゝゝれどあを
ほ ふゞ川おゝゞ方ようハふゞれど多をバ々あをゝゞ
玉 やをうもすくあをよりつゝそれのゞえを月をゝをれゝる
お ふくゝゞれバつゝを多髪のゝゞれをもをゝの所ゝの那
万 おねゞをれハゞゝじゝうゝき人のたゝをゝゝれを地と
代 久方のをゝのかゞゞ山てゝはゝのけゝをゝをゝゞはるめきをゝゝふ
さ 雲がれの那くゝのゝゝきをとゝめ人や好のゝをゝいんをめゝ舞

エズ、井蛙抄ニモ好ミテヨムマジキヨシ見エタリ。

ふぢ衣

。喪服ヲ云、又藤ノ皮ニテオリタル賤人ノ衣ヲモシカ云ヒ、此ス後ノ伊勢ノ歌、並ニふぢ衣ちつるゝノ歌、是ナリ、

ふりそゝ

。振延(フリハヘ)ノ義ヒ、ワザくノ意、

ふゝさけ

。サケハ離ヒ、遠ニ仰キ

不の部

あらぬ　ふぢちひとりくゝぶらひしれバこれるようくて寄ごろもきん

ゆるす　ゆるすで思ひくりとまゝゆゝとのれ杉くへ藤の衣きゝ引ばバ

すり　すりのある月は落やききめの者衣ゝとりあ引れバ袖ぬぎ

ばな　ころもちゝ神の糸よりゝるゝて袖ゝぬゝぐぞやりぬき

ちり　ちりはれ　わるあつゝまやゆゆの神ゝりもくて人のゆくらを

きゝ　きゝのふりたへて社よりぐゝめとくゝたゝうをとゝさゝぐらあん

わるきゝ　わるきゝあゝふりきけ　ふぢくゝんはきゝくゝようやふたあびき

見ルヲ云

ふるまひ

。挙動ヲヨム、日本紀ニハ進止トアリ、俗ニ云ヲ振舞ニ同シ、

ふたぶり

。塞ヲヨム、フサガリヒ、

ふぐ

。ホルノ約フニテ、ホル中ナルベシト千蔭云ヘリ、和名抄ニ、鏟ハ土具也、和名カ奈布久之トアリ、土ヲホル具ナリ、

ふゝみ

。答ヲヨム、ツボミト云ニ同シ、

てゝのたゝ　ふりさけ　こゝれむまるゆるゝあるの山よいでゝ月こも

わるきゝあゝくゝきゝひきゝさゝがあのくゝのふるまひかゝてたゝゝも

ゆゆ　ゆゆもあゝをくふいゝるふるまふさゝがふぞこゝを

わゝが　わゝが恋の数をうぞへバ伊勢の糸くりをみこゝを泣るあゝのぶ

かゝまゝ　かゝまゝのようかゝまゝちふぐゝまよゝふくゝめちゝふ

山城　山城てゝくりつの淀のいきつゝどわゝぐくるまぞふゝみて伊りまて

ふゝめ　ふゝめてゝのひゝ　梅ぐえゝさゝあのゝ伊わるゝあひてえぬゝんかも

ふゆごもり
○冬ニナレバ万物ミナ内ニコモル。草木ノ芽ヲ出サヌニモ云。

ふミーだく
○フミサクム。シタノ紐サーナル。踏ミアラスト心得テヨシ。

ふーづけ
○紫濃ナリ。和名抄ニ罪ヲ訓ム。紫ヲ水中ニタテ、魚ヲアツメテ捕ル仕掛ナリ。フシハ紫ム。神代記ニ紫蘿ヲフシカキトヨマセタリ。

ふすぶる
○熏ヲヨム。モエズニフすくトイブルヲ云。

ふぢ衣
マドホ衣
○藤ノ皮ニテオリシ衣ヘオリメ荒ク間遠ナレバ冠ヲセタリ。又ハルトカケタルハ。塩焼ラガキルフヂ衣ハ。塩シミテ馴ル、故ナリト。

冬ごもり
春
○冬ハ万物ミナ内ニコモリテ。春氣ヲ得テ張リ出ヅ。故ニハルト云ヒカケタリ。

ろろぶー
○轉ビ伏シナリ

ころもをうへに
○衣ヲカヘシテヌレバ。

冠辭の部

古の部

オモフ人ヲユメニ見ルト云詠ヨトワザノアルナリ。万葉集ニハ袖カヘストモ見エタリ。其歌ニ「さぎりのみこひてまぐまぐ白たへの袖うちまぐハ誰

こハ、こや

○コレハノレヲハブキタル人、コヤモ同シ。

ことに

○カクベツニ

ことあるバ

○ナルヿナラ

○遠鏡ニ、「ことなるバ」ズヤハノ歌ノ訳ニ、「トテモ此ヤウニ早ウチルクラ井ナラバ」向

ことハ

○ナルヿナラ

ことぞともなく

○何ト云ヿモナク

○ナント云フワケモナク

ことなしふとも

○ナイト云トモ

○遠鏡ニ、ソンナヿハナイトイヒワケシテモト訳ス。

ことのふの

○俗語ニ同シ。歌コトバナラネド、此歌ノツカヒザマハ宜シ。

ことく

コベツニ

ニシヨテカラサカヌガヨイニ、ナゼサカズニハ井ヌゾト訳セリ、此訳ヨク叶ヘリ。

かきくもりしぐれとハふりむすぶまでぬまこをひきせて更をこそ先

秋のくもの名のみなりけるとりつてとぞともなくいけぬるあを

夕されバ荻の葉ふむおけをかくれるとぞとなくなるこゑおちかた

むらくもの名のみなりけるとりつてとぞともなくいけぬるあを

山里ハ世のうきものとおもふもすこわびぬこゝのおなる岸のいけしあ

うちかけるそふ雪ひせいるれるこゝろをくまし

ことぶー

○ギヤウサン(仰山)ナ

ごと

○如ナリ。ゴトクノクヲハブキタルヒ。

ことの下擂

○琴ノ股ノウツロ空虚ヲ云。

こり

○懲ヲヨム。コリルヒ。後ノ歌ハ。深山ノ木ヲコリル(伐)ト云ヒカケシヒ。

くれあひて梅の香ぞ春ぞこぞふ白きぞりなる

うのはなはいでてこぞしかな鶯の涙もさそへ出るきこえ

ちくさいろ

琴とれば袖のあがきぞぬるつけぞしくもあるものしら絵よつ見やかある

ひ出ておとづれ山ぬのこゝろくまゝなりぬるろあるなり

こゝろめよう山ハ法しとこゝ山本のうもうもうぬかる恋せじ

こりずまし

○コリズヒ。マハソヘタルコトバ。

こゞる

○火ニ焦ルヒ。恋コガルヒ。又舟ノ艙ルナドニ云カケタル歌多シ。

こづし

○木積ヒ。海岸ニ波ノウチヨセタル芥(アクタ)ヲ云。

このめうる

○春ハ木ノ芽ノ張リ出スモノナレバ。木ノ芽ハ(弟勅)ルト云ヒカケタルヒ。

こりずまもちきこゆはたちぬべし人まくかしぬ世うしすゝ八

うのはなはうのこゝろれしし波立ぞこゝろるくかくるぞうか

山ぬぐるまぐれのあのぬ恋ハいくるしるこゝろぬれもつこゝ

(退方)行て出てまとあきるがこゝ夫ハ毎年こゝるこゝれこゝれ

秋ぞめちこのうこゝまのこゝろこゝろハうぬはいしねぞ

手あこゝちこのぬこゝろのぬこゝろふのもあぞふちきこゝもこゝ彩ぞちゝる

(弟勅)かすこゝこゝまのぬこゝもこゝあふこゝ毎こゝのこゝこゝハこゝろこゝぞこゝ

このすゑ
。梢ヲヨム、末ナリ、

うら
。多キ心

こゝ
。此所ナリ

こゝのへ
。九重也、禁中ヲ云、楚辞ニ出タリ、注ニ、天子ノ九門トアリ、

ゆづくしのいそをくゝみさるうみてこのすゑふりくちぬるかな

めづらしきかたちにうつくしきこゝろをいづくもあるかな

うづくもあのが羽ぶきるちりもむを注よおわきてこゝらなくらん

あめつちへよりかぐらゝ神の果あゝびたゝぐそ侍ることいそ侍しものを

はるゝもぐたひらうさやうきさ枝は月きのくくうあるひやうれ

をゝそゝらかひもなるれ梅のさふりふこゝのくよ白ひゝ侍りて

いるゝへのあゝれゝやゝこゝくゝりゆゝ九重よみるひぬゝられ

こゝろづくゝ
。心カラ
。オノガ心カラ

こゝろあて
。心デ是トアテヲシテ、オキタルヽ

こゝろみ
。試又嘗ヲヨム、俗ニ云ニ同シ、

こゝろのくま
。クマハ、曲又隈ヲヨム、道ノクマ山ノクマナド云クマニ同シ、曲リタル所又片蔭ノ所ヲ云ヘリ、故ニコヽロノクマハ心ノ曲リ、陰ヘ文字ニヨリテ意ヲクムベシ、

風ハ花のほゝをさそひ心ぐるしやうつろひてこゝ鶯

風をぐふやもそぐ雨のもちをれまし心ぐるしうつろふこゝろ

こゝろあてやとこゝろ初しものあきまでもぬきぐくのむ

月うげるをもやうれぬちゝ重いこゝろあてまづとぐ有りる

ちぬる命いきるやもあるとこゝろふむ此後だこゝろうつろんとこゝ

思ひてふ人のこゝろのくゝ所でとるたちかくれつゝんゝまぐれ

人をこゝろうゝ侍めゝいきくまくて法きふ所さ後のこゝで立ゝ

こぐしき

。岩根カサナリテケハシキヽ

こきもれ

。シキリニノ意、コキオロスヤウニト釈スベシ、又カキミダレト云意ニモ聞ユ、

ときたゝ

。澹メグルヽ、万葉ニ漕轉ノ字ヲアツ、

こひのむ

。禱祈ヲヨム、神ニイノリネガフヲ云、ノムニ同シ、

神さぶる岩根こごしき高山を大和の国の人の見るかも

見ぐしきの山ゝつゞけてやまとなる人の子ゆゑ山をとるかも

ぬばたまの黒髪しらけかくばかりかなしきまでに吹きてし風かも

ひきのゆのかくのみからにこもりくのこもりてのちは人の目を見む

いづくゆか吹きてきたれる風まじりこの降る雪の花と散りつゝ

ぬさあきてわれはこひのむはぐくむ神のいきづかひかも

冠辞の部

ころもの

ヒタチノ国

。在満ノ説ニ、衣手ノヒダトツヽケシ、ト、

衣手の常陸の国のこころもての田上山のまきのつまでを下畧

タナカミ山

。衣手ノ手ナガキト云意ニテタナカミト云ヒカケタル歟又衣手ノ手長シト重ネイヘルナルベシ、

いそぐし

衣手の手長がきとつがへるかもの山のさ檜のつまでを下畧

こゝと川

コハ

。木幡川是ハトカケシナリ、

あをくま川こゝとあづかひしの我ぞ名をかけがんたぎつ瀬を上畧

ことさへぐ

カラ

。カラ人ノ言ハコヽノ人ノ耳ニハワカズサヘギテノミ聞ユレバ云ヘリ、スベテ異邦ニハ皆冠ラセテヨシ、

つぬさきもふいさくるかもの海ことさへぐ唐の崎なる下畧

こよろぎ

イツギ

。コヨロギノ磯ハ相摸国餘綾郡伊蘇郷ニアリ、後ニ大磯小磯ト云、サレバコヨロギノイソトカケタルナリ、コユルギハ誤ヽ

いそのもとをくゝちんこゆる波のつゝぎ見てもかひあるうらなり

このねぬる
アサ
○此寐テ起タ朝トツヾケタルヘ、

こもりくの
ハツセ
○長谷ハ山フトコロ廣クカコミタル所ナレバ、籠國ト冠ラセシ、後世コモリ江ノ初瀬トアルハ誤リ、

金堤
はるかけの
ほるかをるたり
あぢのゝ
そのもろぐ
もろもの
ふしぬ
ふしぬ
ふしぬ

てへ

○テフニ同シ。トイヘ(ト云ヘ)ヲ約メタルヘテヘレバハト云ヘレバナリ。てふヲ見合ハスベシ。

てへむ

○ト云ヘバヘ。上ニ委ハシ。

てをり

○ユビヲ折リテヘ。

てをの

○斧。和名天乎乃。小サキ斧ナリ。

てぐるま

○輦。和名天久流満。

天の部

古 いやたちまさるよろづきんもあるかぎりをもぐるまてつかせりてへ

我 わがこやまりてへぐだ宮殿のとのくまこそるわもみもるもう

伊物 多をりて多すかるとし我かぞれで十とうひうてうつをへまろう

帛木 てをりてあひくしをうどふかとそひうつやハ君ぎきやし

於 ゑつくるひぐのゑくぶてをのあとろくしうめをてうぶ

年 ちまりもさりぐかるあてぐるまやゑるひうるもちるし

○テグルマノ宣旨アリテ。テグルマニテ大内ニ出入スルヿヲ得ルヘシ。

てふ

○トイフ(ト云ヲ約メテ。古クハ十フト云ヒ。古今以後轉シテテフト云ヘリ。何テフハ何トイフニ同ジ。今モ田舎ニハ十フノコトバ殘レリ。

於 ちまてふわぶ名のやぐきもそもそう人まれぎ社ありひうあしう

伊 ほ帯めくうのあ昂れたまる紀ろつもたハ行てふうひうあるふき

てもすおに

○テノヒマナク

○宣長云。スマニハ數々ノ意ナラント。

方 てもすまふうろうもぎるやかくてハ只れぐもあるびうろうてを

あされ

○歎息ノ詞ナリ。ヨキコニモ。カナシキコニモ。深ク感スレバアトハルト云。上古ニハ句ノ末ニモ置ケリ。

安の部

古 ちのわるうりありれいくうのやどうれやほうん人のあくづれもぎのぬ

於 かるうもさやうき村の月をうてたつきこひしきやうくうの紀

ふ かぐふればやしきも紀ろうりのきれやぐちづくしとふきのふとろふ

あハ

○彼岸ナリ、アレハト云フ、

あだし

○スキマ多ク破レタル心、和名抄ニ亭ヲ阿波良又阿波良也トヨメリ、

あへず

○タヘカネテ

○コラヘラレズ

あへむ

あへなく

あへぬ

○不為ノ意ノ人、

あと

○後ナリ、此羅歌ニテハ、頭ノ方ヨリモ足ノ方ヨリモノ意、

あとむつかし

○アトハカノハカハハカナシノハカニ同ク、水泡ノ如キヲ云、

あぢきなく

○無味気ナリ

○ナントト云フワケモナクノ意

ありがさし

○アルヿ難キヲ云、得ル

「カタキヲ得ガタシ」ト云ニ同シ、

おほれて　うつゝてふひけてもう一切うの木の花の咲かがら紅世を

ありのまゝ

○アリノマヽニ

○アルトホリニ

ありのまゝ　あるものまゝ〳〵やとる都のことをわれる咲きよ

ありのまゝ

○定マレル數ナリトノ說ハアレド星野千之ハ定マレル外ニ余計ニアル數ナリト云ヘリ、玉葉ノ歌ハ其意ニ聞ヱ

ありへ　咲きつゝあの浦のやとゝびをかぞへつゝ玉ぞあもしれはくこゝぞまもん

○在歟ヽアリフトモ通ヘリ、

あらぶ　咲のあり〳〵ぬ代の咲ぬりのあり〳〵ぬかぞへもそ〳〵ぬ

○ヨツ見ナリ

あらぶ　咲のあり〳〵とありひもかけぬ世中ハちり〳〵ぬとぞ名げ咲りなる

○足搔ナリ、馬ハ足ニテ土ヲカキ走レバヽ、

あう　大あ川いとゝ咲ぬ〳〵いとゞ咲のゝもふあり〳〵めな世をし

○開伽ヲヨメリ、佛ニ供スル水ヲ云、アカハ水ノ梵語ヽ、アカ井ハ仏ニ供スル水ヲクム井アカ棚ハ仏ニ水ヲ供スル棚

あたら　咲きつゝ春の月とをあ月ゝ〳〵ん人ゝ咲ぬ

あたら〳〵

○俗ニ「アタラヲシト云」ト云ヘリ、日本紀ニ惜ノ字ヲヨメリ、

咲のゝ月とをかすひらん咲まれば咲ゝ咲ぬ〳〵きかを

あたら代　我國ハとこせ咲ゝむふ人ゝ咲ぬ咲ゝ咲ぬ〳〵

○新シキ御代ナリ

あだ　咲ゝ人ゝを咲ゝ咲ぬ〳〵ゝ人ゝを咲ぬ〳〵ゝ人ゝ

あだし

○士清云、イタヅラ徒ノ意ト、花ニモセヨ、心ニモセヨ、ハカナクウツルヲ云、アダシ心ハ他ニウツル心ヘ、

久しくれあぐふちゝ
ゝきくくもかめまさせれどつゝひまそう
ゝをやのすゝぶ事のまつゝ山あゝもこえ
ゝ

あゝる
○物ニフルヽヲ云、俗ニ同シ、

九 まそのゝれひゝうゝあゝる幾ゝゝかゝらの雪とあゝぐわびゝき
は あぐさゝいゝくゝのゝいゝ杜雪のゝゝくゝごゝやゝゝゝゝさゝゝ舞

あだうゝ
○チヤウド
○マコトニ

万 わゝゝせゝあゝさゝげゝてゝゝゝくゝかゝゝゝあゝゝゝゝ

あらう

○ミアラカハ御在所ヲ宮殿ヲ云ヘリ、

万長上畧 [illegible]

いらら松原

○アララ、疎々ヲ、閑遠ニ松ノタテル原ヲ、アラレ松原トアルハ誤ヲ、

万 [illegible]

あぶそめ

○薄紅ニ染タルヲアラソメト云、万葉ニ桃花褐ヲアラゾメトヨメリ、アサラノ衣ハアラ〳〵シキ衣也、

万 [illegible]

あうら

○足裏ヲ、足ノ踏數ニテ吉凶ヲ占フヲ云、

万 [illegible]

あおと

○足音ナリ

万 [illegible]

あくがる

○又アコガルトモ云、ア

ハ [illegible]

クガルハウカル(浮ヲ)アクノ綴ウヘ、アクガレ出ハウカレ出ナリ、又先達ノ説ニ、在所離ヲトモ云ヘリ、此考モ捨ガタシ、

子 [illegible]

あやふ

○エモイハレズ、俗ニ云不思義ニヽ

ハ [illegible]

あやな

○ワカチナシ

あやめ

○ワカラナイ

ハ [illegible]

○キヌノアヤヨリ出タルコトバニテ、アヤノワカラヌト云意、

ハ [illegible]

あやふく

○生憎ヲヨム、俗ニ云イヂワルノヽ、

ヘ [illegible]

あや笠

○笠目ナリ、アヤナシノ

チ [illegible]

アヤニ同シ

あやめ

○アヤシメ之、人ノアヤシムヲ云、

あやうる

○俗ニ同シ

あまり

○アンマリ

あまぎる

○万葉ニ天霧合(アマギラヒ)トアルニ同シ、カキクモリアサガルヽ、

あやえて人〳〵ものいひさんとのびきつゞきたるとふらぬバ
ちかきあたりだにのがれ去よつゝまぬ神も人ぞあやめる

風ふきみものくぶたちまちすれバなやゝやきて人のこゝろ

あやうきのいのちのあやうふかくして思ふてこゝびわれぬるゝれ

すゝわひて思ふかくまぐき山ちふなやうくまぐき在りの月ル

枝ちれるれるもえこゝびくもの名ぎるもちのゐぐてみれくむ

ものの名ぎるはまぎる雲たちさゝひ雲ると人角の山さゝくわふ

あおづゝみ

○雨ツヽミノ意、雨ニヌレンコヲイトフ之、

かへるさをあづゝみてまくあづゝぬれあバ神を人やなのやゝん

あをくび

○數度ナリ

あをくびこ

○天上ノ人ヲ云、貫之ノ長歌ニ、山ヒコノコヲアマビコトヨメリシハ、写シ誤レルニモアラン歌ト宜長云ヘリ

あけぐれ

○夜ノ明ントスル時ハクラクナルモノヽ、コレヲ明暗ト云、アケク

あををきもあをくびひつゝそのまてふあをくびの移ぬ

あをくびもてる光の雲はるゝ代はいおひうけくん

はるびくのおくぐれしもぐたはふれる人と分をとる世ふ

あをくびふくてて京ふぐ人目も我ぐ紀ぐたはまし

あけぐれけりぐてしのあきくあをくれと人のいふ〳〵森

ぬくれの新考うくまもあをくうまもふりふつげ之と

レト清ミテヨムハ朝暮ナリ。

あけてば
○夜ガ明レバ

あぐる
○火ニテカワカス、俗ニ同シ、

あふご
○和名抄ニ、杓、和名阿布古、杖名也トアリテ、俗金ニ云テンビン棒ニ、コノ歌ニテハ逢期（アフゴ）ニ通ハセテヨメリ

あえ
○アヤカルニ同

あさけ
○朝明ナリ。士清ハ朝氣ヘトイヘリ。

あさあけ
○朝明ナリ。深ミどりノ歌ハ、五位ノ朱ノ衣ノ色ニ云ヒカケシ人。

あさなげ
○朝ニケニト云ニ同シ。日々ト云コトナリ。

あさのげ
○朝日ニウツリテ見ユ

ル影ノ如ク、ヤセオトロフヲ云。

あさり

○スナドリ(漁)ヲ云、イサリモ同シ、アイ音通ナリ、無名抄ニ、朝ニ漁ルヲアサリト云ヒ、タニ漁ルヲイサリト云説アレド、ウケガタシ。

あさり

○サガレモトムルコヽ、新撰字鏡ニ、餬ヲヨム、夫食ヲ求ムルノ義ト云ヘリ、漁獵スルヲアサルト云ヒ、又史書ヲ廣クヨムヲモアサルト云、皆サガシ求ムルノ意ニ出ツ、

あさい

○朝寐ナリ

いさきの柱

○濱臣云、フシタキタル雜木ヲ云フカ、越後人ハ今ニフシクレダチテ樹木ニナリガタキ木ヲ、アサキト云トゾ、

あき

○飽ナリ

あゆぐ

○動ク意ト関ユ、アルクト云ニ近シ、

あゝづゝ

○奥儀抄ニアシノヨ芦

蘭ノ中ニウスヤウノ如キ文アリ。是ノト。後撰ノ歌ハ。前漢王莽傳ニ。臣与陛下有葭莩之故ト云ニヨレリ。

香クハ和訓鈔ニ見ユ。

いしきも

○繩。和名阿之岐沼アラキ縄ノ

いしで

芦又ハ水鳥ナドヲ文字ヲミダシテ画ノヤウニカクヲ云。源氏ニアシデ歌トモ見ユ。

いひにあひて

○是ト彼トヨク相合フナリ。

あひず

○間ト云フ。多クハフミコトバナレド。古ク歌ニヨメルモアリ。

たぐれよ

物名

いかきはけ

かゝみてぞ

くきゝる

初ろやたゝぬとはふまるべし

たぐれよ

いろをきてこれはたぐ十年の間でありけり

ゆまぐれ

なやらをけりてやいしでのこゝろかけるたゞびき

あひしらあひてあるふゝろハ我神よやどる月とへ好ゝ新ふる

きのふ

あひずつきるよぶこゝぐくつぎて年くれにきも

きゝゐをあひずいたゝろぬるをもくゝりとれば

あすか風

○明日香又飛鳥トカクニテ吹ク風ヲ云。アズハハ大和ノ高市郡ニアリ。万葉ニ伊香保風佐保風ナドモ見ユ。

ゆ

ゆ

あをやぎの

カツラキ山

○青柳ノ糸モテ造リテ頭ニカクル鬘(カヅラ)アリ。サレバ青柳ノカヅラト云カケタルヘ。

いををふよ

ナラ

○大宮ナド建ラルヽ地ハ。イクヘモ土ヲツミテ築ナラス。其心モテ弥百ノ土ヲ埴ストト同語ナリ。古来緑青吉トカケル説アレド余ハ取ラズ。

あらぬさす

ヒヒルムラサキ

○アカキ氣ノサス日トツバケタリカネノ反ケナリ。

冠辞の部

あをやぎ

あをやぎの神ふきうつ春の都をとゝろかしてはるかすみ

いををやあれつゝげふのまる中

いををやいのかづらきゝ山よ柳ひけるを墨

金樓

いををあらしふるのふるとるつくれたきゝて思ひもとゝろふ

いををあらしふるのふるとるつくれたきゝて思ひもとゝろふ

いををやさんゆはてゝ世れど明ぐる日はあやる風のかゝくくきも

あくもさんもゆきき郭やゆさ土多人のゆき郭やいらぬ神ふ

あづさゆみ
ハルヒクオト
モトスヱヨル
イ

○イヅレモ弓ノ縁ヲモテ冠ラセタリ

あら玉の
トシツキ

○璞(アラタマ)ノ磯ト云カケタリト云ヘレド、明玉(アラタマノ)鬱シテフ意ニテ年ニ云ヒカケシナルベシト冠辞考ニ見ユ、妄クハ水書ニツキテ見ベシ、又六人部是香ノ説ハアラハ現ニテ、タマハ題間ノ年月ヲ経ル間ヲ云ヒツノ詞ナリト、妄クハ篤胤玉箒ニ出タリ、

ひらたへの
コロモフヂ井

○荒栲ニテ、アラキヌノ衣ト云ヒカケ又藤井藤原ナドニツヾケシハ、フヂ布ノ意ニテ、

ひらぐぬの
ハツセ

ちづさゆみ
ハルヒクオト
モトスヱヨル
イ

ちづさゆみ　ありてきくとも　ものをこそ　思へ　ものをこそ　思へ　ものをこそ　思へ

○舟ノ港ナドヘ着クヲハツト云ヘバ、海頼ニ冠ラセタリ。

あさとぶや　カリ　カルノ道

○天ヲ飛ブ雁トツヾケタルヽ語ノカヨフマヽニカルニモ云ヒカク。

阿武ごるゝ　タミノヽ島

○雨夜蓑トツヾケタルヽ

あまざうる　ヒナ

○都ヨリ鄙(ヒナ)ヲノゾメバ、天トトモニ遠ザカリテ見ユル故、天撥ルトハ冠ラセタリ。

あさつゆの　オキテ

○露ノ置クヲ起クニ云ヒカケタリ。

あきの田ゝ　イネ

○秋田ノ稲ニ寐(イネ)ヲカケタリ。

ゐきゐの　フキアゲ

○秋風ノフクト云ヒカケタルヽ。

ゐきぎりの　タツ野ハル、

○キリノタツト云ヒカケ、又キリハ立テバハルヽモノナレバ、霧ルニカウムラセタルヽ。

ゐゝ垣の　マナカシ

○垣ヒトヘニテ隣ヲヘダツルユヱ、間チカキ料ニ冠ラセタリ。

あゝひきの　ヤマ〻ハアラシ

○サマ〻ノ説アレド、古キ説ハトトルニ足ラズ。冠辞考ノ一説ハ、アハ天ニテ天繁木(アシミキ)ニ説ハ、青繁木(アシミキ)三説ハ、神代記ニ、軻遇突智命ヲ五キダニ斬リ五ヘバ云々、足ハ鑓山祇トナリヌ足繁水之山ト云歌トアリ。委クハ本書ニ就テ見ベシ。

トアル、鮮ハ借字ニテ繁村山ト云意ナレバ、足繁

さはる
○障ルこと

さはる
○モノニ觸ルヽこと俗ニ同シ。

さた
○サヤウニ
○カヤウニ

さだうう
○ソレホド
○コノヤウニ

佐し部

万葉
いりのかしふるとも雨るさめやあワんとらさよりひてすのを
六
しふんもあきやどあれどくるさハやへむぐゝこさらゝげるを

七九
これろうこの月のゝくようあく舟の掉ゝはけるハかつゝたるべし

今
ゝふハさえ雪ゝちとゝてゝらゝひすの赤よりづるゝろゝねたるゝん
日
ゝふハはえたちゝろゝゝも俊りはゝばほりやゝゝやのあさけはするれ

ね
うちをゝてまゝハさゞゝうはどゝきをあのんやあよりそゝゝゝを

さと記
○數ヲヨム。スルドキナリ。

さりげなく
○サウアリゲモナク
○ソンナヤウスモナク

さぬる
○サハ發語。無ルナリ。

さが
○ナラヒ。性ヲサガト云。又祥ヲモサガトヨム。ヨキサガアシキサガナド云ヘリ。

さらるくに
○クチヤカマシキ

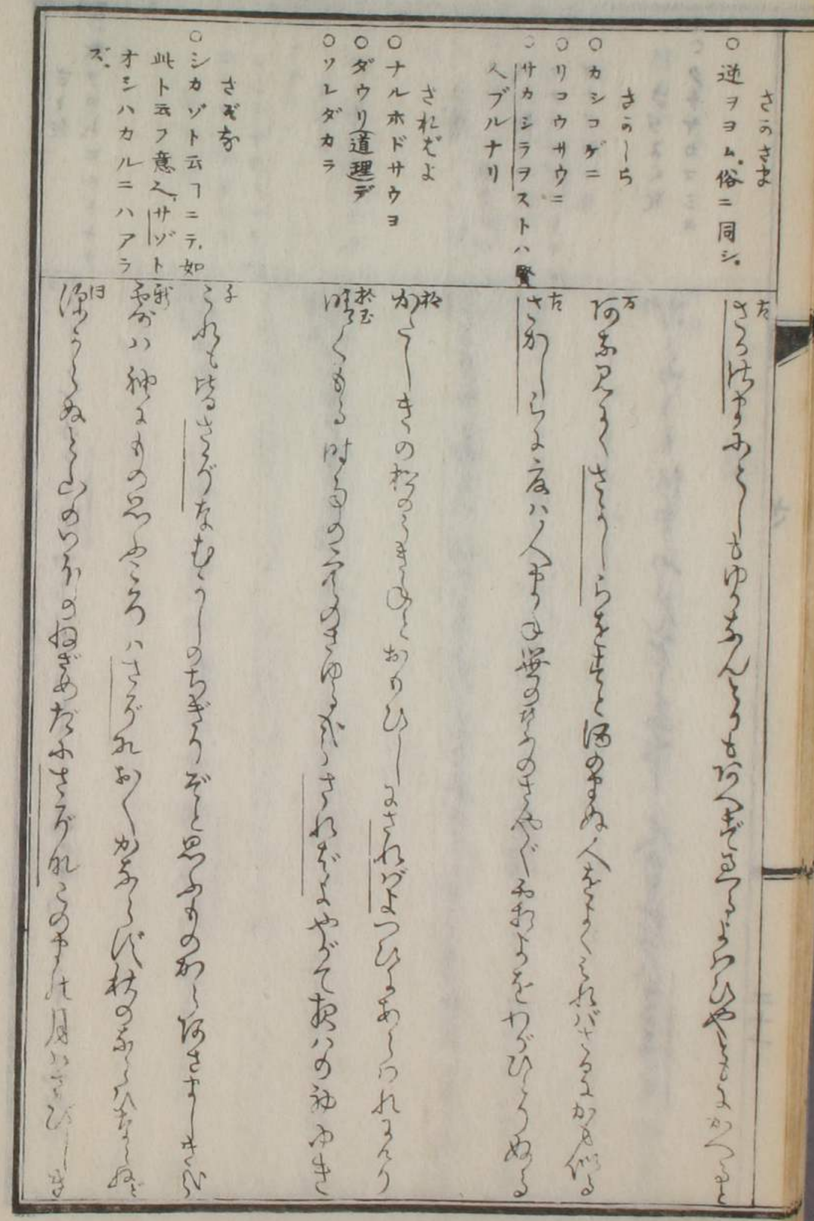
万
ゝすゝゝをのさゝ雪ゝいもゝ
ゝ
ゝ

さのさま
○逆ヲヨム、俗ニ同シ、

さのーち
○カシコゲニ
○リコウサウニ
○サカシラヲストハ賢人ブルナリ

さねどよ
○ナルホドサウヨ
○ダウリ道理デ
○ソレダカラ

さぞかし
○シカゾト云フニテ、如此ト云フ意ニ、サゾトオシハカルニハアラズ、

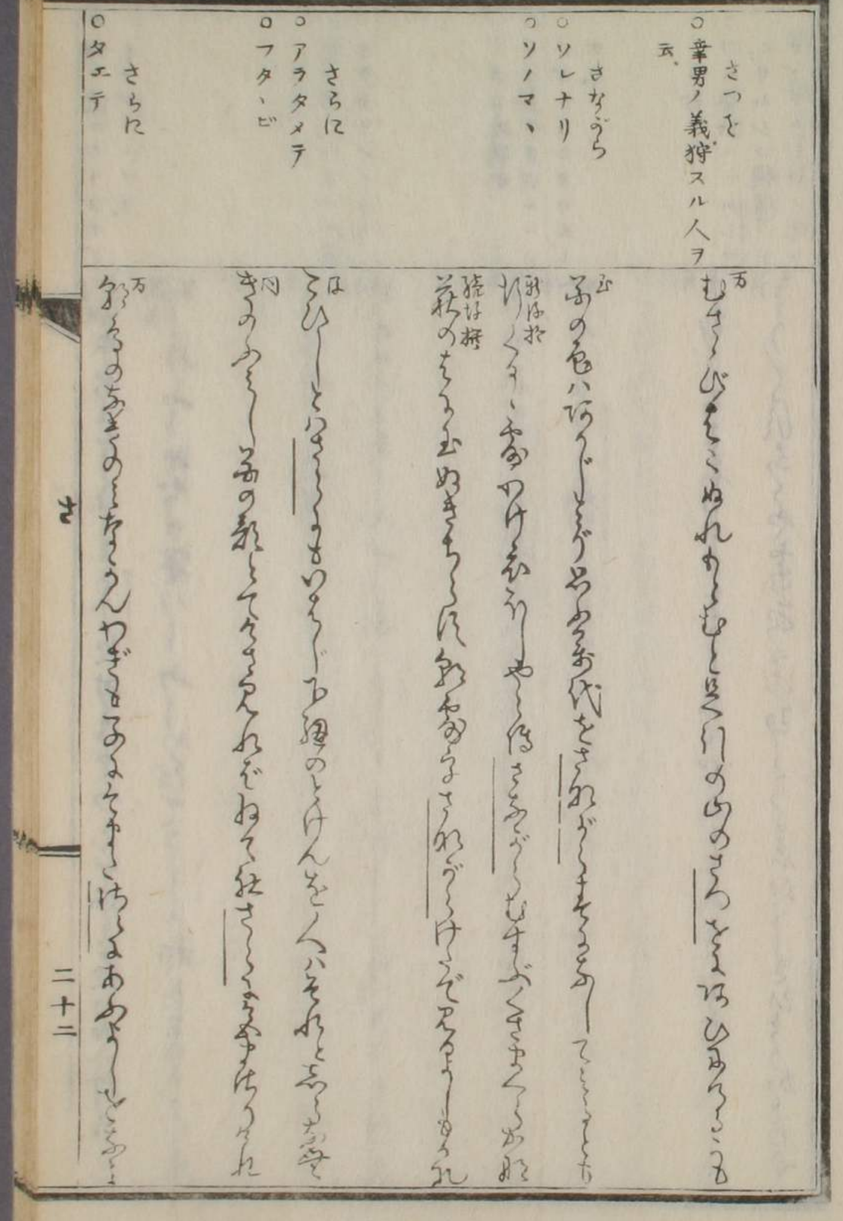


さつを
○幸男ノ義、猟スル人ヲ云、

さなぐら
○ソレナリ
○ソノマヽ

さらに
○アラタメテ
○フタヽビ

さらに
○タエテ



○俗ニ更ニシラヌナドイフサラニナリ。

さらく に

○前ト同シコトバヲ重ネテツヨメタルノ。

さらぬ別れ

○サウアラヌ別レニテノガレラレヌワカレナリ。

きむしろ

○ケハ發語ニテムシロヘ。サムシロ狭筵ニテ狭セバキムシロノ意ト

解ク歌モアルベシ

さのゝ

○ソノヤウニ

さやけし

○清クスミノ。月ニモ音ニモ云ヘリ。

さやう

○ハツキリ

○アキラカ

さやに

○ハツキリト

○アキラカニ

つぬきとふふんはあの中異いそぐ神さやうも見てとび下異

さやぐ
○サヤ〳〵ト風ニ鳴ルヲ云

さかしらよ夏ハ人まもさるものさやぐおとわぐひとくぬる
あもすぐ〳〵はしふそふ深のそうやぐなれいきもやろ兵

さてそ
○ソノ通リ

ふくそわをはそそれしこ思ひんん人をもいふこそ見るくゑん
おのづくさくふあれとやふまたまくふ人のとうばちろぬる

さても
○ソレデモ

わづぶ〳〵我をふさん人かづれさてもやうきと世をころ見ん
やくくでき〳〵くまくやたくぶんさても神そるやうれちるん

さておき
○サウシテオキ

思ひうびそ〳〵あまうげいさてあきて高きざうりんとろぞふき

さてさて、
○サテハ和名抄ニ纏ヲヨム、サスハ俗ニ云スクフ之。

くら川の岡をもあちびさでざれふ高よぬんぬちまふいたくしふ

さゝれ石
○水中ノ細石ナリ

わづ男ハ五代よハ代よさくれるのいそそちてきけるむちすそ
君ぐ代をはうるるくうんさくふのはそあとちくんちくもあるぶぞ

さゝら之男
○サゝラハ小キ意、エハ美キ意、月ノ異名之。

山のはれさくくらんそくくこ天のそくくちくるひくうんくくしよくも

さゝ
○サウトモ

かくくぐふえやいふつきのさくくもるはくくれるゆるおのい浅
はれやあくくいでたぐくるくくきちきのくんくくもるをぬ人もあくう

○ソレホドニモ

さゝぐら
○サウシナガラ

さゝくて
○サレハ発語ハヘハ延ヘ打ハヘフリハヘナドノハヘニ同ワザクト訳テヨシ

さゝぐあれ
○ソレハドウデモカマハヌ
○サウナラサウデヨイ

さゝぐふ
○サウハ云フモノ、
○サハアリナガラ

さすらふ
○流離ヲヨメリ所ヲハナレサマヨフ心又左遷ヲモシカ云ヘリ

冠辞考部

さねうづら
後モ逢ン クル
○後モ逢ンヘカケタルハカヅラノ長ク延ヒ別レテハ末マタハヒアヘルニタトヘタリ又スベテカヅラハ手グリテ刈拂フ故繰ルヲ来ルニカケタルヽ

さゝ浪の
志賀辛崎比良
大津宮故キ都
○近江ノ志賀ノ郡ニアル地ノ大名ナル故其辺リノ地ニハスベテ冠ラセタリ

さゝごもの
クモ
○蜘蛛ハ蜘蛛ノ別名ナレバサヽガニノクモト重ネ云ヒシヽ又続貂ノ允恭ノ巻ニ佐瑳鍬泥トカキタルハサヽノ根ノクミカラミタルヲ蜘ノ名ニ云ヒカケタルカト或人ノ説ヲアゲタリ

さきくさの
ミツハ
○サキクサ(福草)ハ、一ツノ莖ノ末ニ三ツノ枝アリ、故ニミツト云詞ニ冠ラセタリ、姓ニ三枝アリ、サキクサトヨムベシ、今ハ音便ニテサイグサト云フナリ、

幾の部

きかふ
○鏡ヲヨム、キソヒアフ心、

きぬぐ
○衣々ナリ、遠鏡ニ一ツニナツテ寝テ居タフタリノ着ルモノガ、別々ニナツテ別レルガ悲シイト釈レタリ、是ニテヨク聞ユ、

きかく
○聞クヽ、カクハクヲ延ベタルヽ、

きたなし
○俗ニ同シ

きそふ
○競ヲヨム、キソヒアフナリ、

きその歌
○昨夜ヲ云、

きつ
○狐ナリ

きえうへり
○キエカヘリノカヘリ

ハワキカヘリシニカヘリナド云カヘリニ同シ。其コトノ甚キ意ニ云ヘリ。

由〻部

ゆだね

○イミダネ齋種ナリ。イハヒゴト祝言シテ種ヲマケバ云ヘ。イムノ約ユナリ。

ゆさのたゆたに

○タユタフ意ナリ。

ゆさのたゆた

○上ニ同シ。コノ歌ニチハ大舟ノ波ニユラル、サマヲ云。ウカラ〻ト物ヲ思フ意。

ゆづいもむら

○神代記ニ五百箇磐村（イホツイハムラ）ヲ祝詞ニ湯津磐村トカキ。イホ（五百）ヲツヅメ通ハシテユ（湯）ト云ヘリ。湯津桂湯津ハ梯ナドアリテ。ユヅハ多ク繁キヲ云ナリ。六人部是香云。湯津ハ清潔ノ義ヘ。

万 ゆぶねもゝ〻ゝのきのを田をもゝめんとあゆびハぬれぬ川の瀬ゑ

万 まゝやぶのえぐきりおろしゆぶねすゑ〻〻ゝ夫よこひ〻〻るかも

万 わぐゝゆゝふゑゑゑゑようゑぬゑハへゝもあきゝゝもようがてゝゝを

万 いでわれをゝ人ゝゝゝゝゝめそたふねのゆゝゝの多ゆゝゝあらふゝゝゝ

万 ゆのゝゝゝゝゝゆづいもむゝゝゝゝゝ

ゆふ波ふる
○ユフベノ波ニキホフ千鳥ヲ云

ゆふかげ草
○草ノ名ニアラズ、夕方ノ草ナリ。

ゆふうらさけて
○タニムカヒテ、カタマケハ方向ノ意。

ゆきもよ
○又アマモヨモ云ヘリ。雪ノ夜雨ノ夜ト云ヒテハ調ヨロシカラヌユヱ、通音ニテカク云ヘリ。モニハ意ナシト、是ハ普通ノ説ナ、清水濱臣ガ證歌ヲ數首ヒキテ云ヨハ夜ニアラズ、雨モヨハ其フルサマヲ云ヘト、此説ニ從フベシ。

万 あつまけく夕ふるゆきのとけなくに君が心の開けなくに
金 風まじりゆきぞ降りける
万 わぎもこの夕かげ草の花ぬ〻ぬぎ降るゆきの色まがへつる
新 夜ふかみ降るゆきのなかに
万 いつしかと待ちぬとをりぬ降るゆきの
日 梅の花ちりまがひたる
新 雪もまだ降りかてにする梅の花ちりまがひたる

ゆぎ
○弓筒ヘ、今云ウツボ。

ゆし
○忌ヲヨム、イマハシヘ、

ゆゑ
○ユメハイノ齋ニテ、モノヲツヽシメトノコヘ、万葉ニ勤努謹等ヲヨメリ。

ゆふづくよ
オボツカナキ

万 ゆきもよのゆぎとりかひて出でつけば別れをしぬ〻歌ぞなんかも
拾 わびぬれば夢にぞ見ゆる
ゆ 夢にさへつれなかりけり
古 ゆふづくよあかつきをとこ
かつきもとるものありけるを
ゆめ
ゆふづくよあかつきをとこ
ゆめをくらをとこ

冠辭の部

ゆふづくよあかつきをとこ

ヲグラ
○夕月夜ハサヤカナラデヲグラク。オボツカナキ故冠ラセタリ。

ゆふづゝの
カユキカクユキ
○カユキカクユキハ彼方ニ行キ此方ニ行キ。ユフヅヽハ長庚。即太白星ノ。夕西ニアラハルヽ時ニ長庚ト名ケ。朝東ニアラハルヽ時ニ啓明ト名ク。其行道ニヨリテ。西ニ東ニ見ユルユエ云ノ。

古 夕づくあさぐゝの山のたなゝ葛のあゝのうちうやはきハくゝ母と
百長 夕づくれかゆきこゝゆ紀大納言のたゆとふこれなめ上下畧

米〳〵部

めぐれぬ
○目ハナサヌヽ。目ヲハナサズ見テ井ルヲ云。

古 くゝとあくゝ見ぐれぬものを掬のそれいつの人ずよろひぬらん
続古 もきあいつの人まよ見ぬゝ母し見ぐれぬ月そみゝふたりゆく

めぐれ
○目ハナスヽ。目ガレヲノウラヽ

めなぶぶ
○目ニナラブヽ。外ニヨ

拾 あとゝ又さゝべきあのあゝぶをうろふ菊よめぐれともせ見
古 見ぐゝゝめあゝぶ人のなまさあれば忘ゝれぬゝん数あゝぬ所ハ

ロシキノガアルヲ云。
拾古 あぐれのまぐれ見ぬ人の見ぐゝゝ見ぬあゝぶ色も見えぬひとのれ

めのうちつけ
○目ノサシサダメ

拾古 掬ぐゝゝよ涙あるゝ見ぬうちをまをゝ見の手つけるゝ花ゝゝぞゝ紀

めでたき
○ケッコウノコヂヤ

古 はゝうちゝちゝぞめでゝ見紀掬されけりて世中ゝそゝゝゝゝれぞ

めさげ
○召上ゲヽ。

万 あぐぬゝのゝゝ涙たまひてそゝゝばちゝの都よめさげたまそね

めもさるに
○目モ遠カニヽ

古 陸の玉はあるはのまそのめもさるにたぐきやぐ忘人ゝゝゝめや
拾古 いつ見のゝゝとあぐむゝ母のめもはるふかぐりもゝゝぬ代の子ゝ

ミかしろ
○御戸代トカケリ。ミトシロ小田ハ神田ム。

ミちゆきぶり
○道ユクツイデム。フリハ躬リム。

身をつむ
○指ニテハダヲツムヲ云。ツムハ俗ニ云ツメルム。我身ニ引クラベテ他ノ上ヲ思ヒヤルヿニ云ヘリ。

身をしる雨
○古今集伊勢物語等ニ見ユル身ヲシル雨ヲ。泪ノヿヘト云ハアタ

美〻部

タかけてくるゝ[illegible]ゆのかみのこや人

さくれむ丁[illegible]るなりゝ[illegible]

さくゝむちゝびをしゝ玉絆の[illegible]ゆさぶりふさりてかざゝん

身をつめバあいれゝぞゝ[illegible]

その[illegible]よあふるふきみのわびしきハ身をつゝてだよ人のゝゝぬよ

古伊物
ゝくよあのひゝをゝびゝひゝぐゝゝ身をゝる雨ハゝりぞまちゝふふ

ふる神よゝゝゝ

みたやもり

○御田屋守ナリ。御田トハ代々大神宮ニ寄附セラレシ田ヲ云。

みづえぐむ

○瑞齒グムヘ。中世三ツ輪クムト説ルハ非ヘ。水ハ汲ムト云カケタル歌ニテモ知ルベシ。ホ雅ニ齒ハ壽也。註ニ。齒墮更生細者トアリ。

みづかげそ

○水ニ生スル草ヲ云。

みあぐぐ

皆ナガラヘ。コトヘグノ意。

みらく

○ラクハルヲ延タルニ。ラクノ約ルナリ。

みのしろ衣

○蓑ノ代ニキル衣ヘ。和名抄ニ雨衣ト見エタリ。

みくさ

○ミクサハ眞草ニ。クサト云ニ同ジ。ミクサ。ミハ。ミスバ。ミコモノ。ミノ如ク別ニ意ナシ。或ハ又水草(ミクサ)ノ意ニヨメルモアルニ。

みやびを

○万葉ニ風流士遊士ナドカケリ。俗ナラヌ人ヲ云。

ミやこの富士

○比叡山ヲ云

足ずれ　ぶずれ

○見テモ見ナイデモ。

ミけー

○御衣ヲ云

ミてぐら

○幣帛ヲヨム。又サナリ。神前ニ捧ルモノヲ云。

ミぎり

○砌ヲヨム。石ダヽミ。然ルヲ後ガタハラト云ホドノ二云ハ誤ル。

我こひのあゝはまくもゆるまれるゝば都のふじといそんるかーを

（伊物）まくらくさ　ふまれこびまれめの移ろめづらしげふくもゆるつゆこひ

（伊物）ちれやはけるものおもおもくーこころ男ごゝけーとるそやつりくれ

（於）沖まくるやどのおのすどもうくゝうとぞ行やるれるる

（万）いそぐゝはわうあいはるーびあめるやんとうとるむめのふやのみてぐら

（万）岐古）まくりまき光をそくて五ーきのゝぎりまもんる交ぜようの力

ミーぶ

○水澁ナリ。

（於古）ミーぶつき植ゝ山田ゝ苗さくて万秋ぬゝ生村い苗ゝ

冠辞ゝ部

（万）ちゝあゝぶ神ゝ山のゝみづ垣のゝ忍さーきちゝうおりひきつゝまい

（伊物）むつきーと男ゝ出ゝて波ゝみづ垣のゝーき世ゝいまひ世ゝめてき

○磯城瑞籬宮（シキミヅカキノミヤ）ハ上ツ代ノ中ニモコトニ名高ク久キ昔ノ御代ノーナレバ、カク冠ラセシナルベシ。

ミづの泡の　ウタカタ

○ウタカタハ水上ニウカブ泡ヲ云。ソコデ水ノ泡ノウタカタトツヾケシシ。

ミづ鳥の　アヲハカモ

○水鳥ノ鴨トイヒ、又其ノ鴨ノ青羽ト云カケ又ルナリ。

（万）村のゝいゝ〜ちゝうゝゝのまゝゝのの山のいろづくゝれを

（万）ゝとゝゆの鴨の羽のゝのあゝゆくまをとゝゝゝゝゝ人いかぎゝれ行ゝゝ

ゑぐきの
ヲカ

○地名ニアラズ。間ノ拠コトバ之。変クハ本居翁ノ玉勝間ニアゲツラハレタルヲ見ベシ。ミヅヽミシキ木ノヒカシト云フ意ヲカノヒハ日ニ通フ之。

枯風の日まけふふけばゑぐきの芽のこのもも名づきなるか

みやま木の
コリ

○深山木ハ伐リテ出スモノナレバ懲リニ去ヒカケタリ。

我身あるかつい法ゆ一紅葉の本のくるゝもさりぬかゝるまひせど

みすゞかる
シナノ

○裏篤ヲ刈ル野トツヾケタル之。ミスヾハ小竹之。

みすゞかる志なの清のまゆゝつゞひらばくまゝ人さびてら形いえんかも

之乃部

志ろ

○代タシロトヨム。カハリ之。

松物名
くらゐすのたうんさ伝すい我ぞあく花の匂ひやこゝ一ゑまと

柳
柳ぎゝひゆゝもふゝぬ梅のそれさゝぬが志伝まそへてぶ見む

志む

○シバゝゝ之。度々之。

金
志ろ風ふよ志ゞゝろ波の之あつりゝゝゝみてもあるたのまゝゝかれ

松物
うゞ秋いろゝふぎ伝の文ゞゝ志ゞ分くゝゝゝるまゝゝ之のゝえん

しゝろ

○クレナ井ノチシホナド云ヒテ。深色ヨリ出タルコトバ之。後世一トシホナド色ニ縁ナクテヨメレド。古クハ見エズ。

古
ゆゝ紫ろゝゝゝ

ユ

志どろ
○マトマラズ乱ル、カタチヲ云

志どけなし
○アドケナシ
○イクヂナシ

志るし
○イチヂルシノ略ナリ、アキラカニ同シ、

志ゑ
○効驗証等ヲヨム

羽衣
ゆ
ぐ
と
ゐ
ひ
ゐ
ち
ま
ま
め
ゐ
ち
ち
ま
む
ま
ま
つ
ゐ
れ

独
ね
ど
ま
み
ど
ね
て
ゐ
ひ
で
ま
ど
ゐ
ち
る
ま
ど
し
ま
れ
ま
と
ゆ
ひ
ま
き
ん

ま
ま
ま
ま
き
ま
ゆ
ま
ま
ま
ん
ま
ど
ゐ
ま
ん
ゆ
ま
ぢ
ま
ま
ま

公忠
ま
ま
び
て
ま
ね
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

円
ま
ね
て
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

古
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

志ゑり
○姜ヲヨム草木ナドノシヲルルノ意ニ同シ、シヲリハシフラスヱシボル意ニハ非ス、

志をり
○士清云、山ニ入リ木ノ枝ヲ折リカケテシルシトスルナリ、標折シメヨリ又紫折ノ義ナルベシト、古未詳ノ字ヲヨム、ヨク當レリ、

志う
○サウ
○コノトホリ
○然、又爾ヲ訓メリ、

万葉ト
む
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

拾
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

山家
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

新古
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

志うすず
○サスガニ同シ

志うず
○オヨバヌヱ
○ヨカズケリハシカザリケリヱ

志あゞミ
○舌シブリテ詭ルヱ

志づく
○シヅクハシヅケレヲ縋メタルニテ沈ミテアルナリ

陸奥 ちぶ人あうこまあれどふゝ里ハ志ゝすぎゝこゝひしゝるゝくれ
出羽 能ちぎゝよ雲ワあうつゝ志ゝ能がよ雲あゝゐわびきさゝ志ゝ
万 ちぶゝゐこまあゝらすゝ酒ゝゝそゝ志ゝひふきさゝふふゝ志ゝ
月清 ちゝよゝ志ゝふゝわゝぶゝちゝとゝあゝ狂ゝ志ゝゝ志ゝゝしゝぶれのゝゝふゝうゝねゝゝぶゝも
於播磨 ひのゝつゝあゝやゝゝあゝふゝふゝゝる人のゝふゝハゝ志ゝゝぶゝみゝてゝうゝゝゝもれゝいゝひゝれ
万 ゝぶゝの尾志ゝゝゝ白玉ゝふゝゝゝ世ゝゝてゝゐゝハゝゐゝゝもゝゝゝゝすゝハゝやゝまゝゝゝゝ
古 ゝゝけゝあゝゝよゝ志ゝゝゝゝあゝのゝゝゝさゝやゝうゝふゝも世ゝゝぶゝゝゝかゝげゝのゝゝゝゝ

志のぶ
○コヒシタフ意

志の
○シゲキ意

志ま
○庭ノ下ニ。伊勢物語ニ島好シ玉ヘ君ナドアリ。

志まき
○海上ニテ俄ニオトシ来ル風ヲ云。ハヤテ〻

志げいと
○経糸。和名之介以度。キヌノクズ糸ヲ云ヘリ。

志ぶく
○シブル心。高瀬舟シブクトハ舟ガ物ニサハリテ行キカヌル意。

志で
○シゲクノ意ト聞ユ。古言ニシゲクヨレバト云。

志で
○垂(シダレ)ヲヨメリ。ホ綿シデナドノシデ〻。ダレノ約ゲトナル。

志での田をさ
○ホトトギスノ異名。死天(シデ)ノ山ヨリ来ルヨシ云ナラハセリ。又賤ノ田長ト云フ説モアリ。萩原元克云。シデハシダリ穂ノ田テフ意。タヲサハ田ワザナルベシト。此説然ルベシ。

志きぎめて　ねぐき

○鳴ハアカツキニ羽タヽキヲシゲクスルヘ。食根ハ木ガキハ羽タヽキナリ。

一色

○標ヲヨメリ。標ハシルシヘコヽヲトシルシキメオクノ意。

志ひて

○強ヲヨム

○ムリニ

○ゼヒ

志ひゝぢの袖

○喪服ヲ云

志ゆや

○皆ヲヨム。身ヲタヽクムタヽコヽニハ霜ヲヨセタリ

志わと

○若木。又若枝ヲ云。

志ろたへの　コロモリヲ雪

○タヘハ拷ヘ。布ヲ云。ソメヌ布ノ衣。其外スベテ白キ物ニ冠ラセタリ。

志づのやき　カズニモアラヌ

○倭文(シヅ)ト云フ布ヲオラン料ノヰダマキハカズタキユヱカズトツヾケタルヘ。

志づのをだまき　イヤシ

○前ノ同シ。シヅ(麻)ト語通フマヽ。イヤシトツヾケタルヘ。

志ぬ

○ヤ。ヤ。ヤ。

ふぐ名
ナノ

○息長帯ハ、和名抄ニ鵜飼尔保トアリテ、俗ニ云カイツブリ、シナガ鳥(丼)トカ、ハ雌雄相ヒキホルヨリ云ヘリ。

ツクシ

○シラヌ火ハ冠辞考ニ景行紀ヲ引テ委ク説カレタリ。遠ニ火ノ光ヲ見テサシナ来レハ、其光誰ガトモセル火トモ知レズ、故ニ其國ヲ火ノ國ト云、其イハレモナ冠ラセタルナリト。

オキテモ

○ツユノ置クニ起クヲ云ヒカケタリ。

コロモノソデ

○シキタヘハ敷栲ニ云。夜ノ衣ヲ云。ヨリテハコマクラナドヘ冠ラセタルニ。

ヤマト

○崇神紀ニ、都ヲ磯城ニ遷シ玉フ、瑞垣宮トマヲス。欽明紀ニ都ヲ倭國磯城郡磯城島ニ遷シ玉フ、仍テ磯城島金刺宮ト号ストアリテ、二代ナガラ殊ニ數年ヲハシマシテ名高ケレバ、大和國ノ名ノ如クナリニケニ、後ニコト所ノ都トナリテモ、猶ヤマトト云ニ冠ラセシハ、此故ナルベシ。

カツラキ山

○若木ノ林ヲシモト、云ヒ、又水ノホッエヲシモト、云。紫薪ヲバフダカヅラニテ結フ故、カツラキ山ヘ冠セシナリ。

○尋ヲ酬ム、今モ一ヒロニヒロト云、周礼ノ注ニハ八尺ヲ尋ト云ト見ヱ。

ヒロ

ヒトヤ星

○人ヤリハ人ニヤラルヽヲ云、人ヤリナラヌハ我カラスルヲ云。

ひとつえ

○十尺ヲ一ツエト云。仲哀紀ニ。身ノ長十尺ヲヒトツエトヨメリ。故ニ一ツエ足ラズヤサカ(八尺)トヨメリシ。

ひとねめぐり

○太白神ヲヒト夜メグリト云ニ。又ヒト日メグリト云。太白星ノ精ナリトヅ。世ニ此神ヲフサガリノ神ト云ヘリ。ヨリテ此神ノメグラス方ヘ行クラ方違ヘト云フヨシ。

ひぢ

○泥ナリ。多ク悪路ニヨセテヨメリ。

ひとワ〳〵へ

○人ワラハセヘハセノ綱ハヘ。

日うけ子

○葵ナリト云説アレド。

古 月は異きやさんと中畧つゐてしばやそうの歌あげくども下畧

今 君こゝろはひとつのめぐりの和とまけちるもろもろのかさるぐわん

古 かつらこのかさいさのこぐらさがんひとよめぐりの君こゝろはれども

はるか 人ぞしるひぬやうれの嘆いつもとこひぢふぬるものみこハ

はるか いかやうえかけしるあすとのおもをゑてこひぢふやこうぶ

万代とちぎりしことのいとぐふひとめしくもるとぬぐきわれ

後古 くるあふ逢まのゆうのはこげまゆづれの世をうかけそ。めろ世

豊明ニヨメルヲ見レバ日カゲノカヅラナルベシ。和名抄ニ。蘿。和名比加介ト有リ。

人だのめ

○人タノマシメヌ人ヲタノミニサスヘ。

ゑ あまうら

○一向ヲヨム。イチヅ(一筋)ニヒ。

ゑ あまづる

○前ニ同シ

ゑ あまず

○浸漬等ヲヨム。水ニヒタスヒ。自ラ水ニ入ル

古 かつらこそわうれもゆくらかの山恨い人だのめる名こそを有る紅

葵 くもかぐらくるこれ名のこそて人ぶのめる名ふぐう我

後 ひとをふるひとそぬるぬをしばよ〳〵ぬ山る行へをしれ下

ふ こをこをふ根こをもせでさ行の世ふかあをでこうハ契ざりをめ

はる もとぶふ思ひれわびそふるこく人のゆそうふぐこうの名

ひる ひるぶふ山田をふ名とちぬれぞ我のこ人ぞあぐろうをこれ

月は 旅人をふくりし杖のはこあれや入江のあふもこの月しげ

ハヒタルシ。

むづ

○ヒツタリトヌルヽ。

ひつき

○日次トカケリ。貢租ヲ云。ミツギモ同シ。

むつち

○穭。和名抄ニ路賀於比。俗云比豆知。自生稲也ト和名抄ニ見ユ。刈リタル株ニ自生シタル稲ナリ。

ひねかす

○終日

ひねもす

○蘖。ヲヨム。木ノキリカ

神ひぢて

とぐこれる

朝ぎぬ

ふるてあつる

荒田

ブヨリ出ル芽ザシヲ云ヘリ。

ひさし

○久クシテ葉ニモ見ユ。

むきまゆ

○和名抄ニ獨蛋。比岐万遊トアリ。ヒキタルヒトスヂノマユノ糸シ。

むかぐもり

ウスヒ

○曇リ日ノ影ハウスケレバ。ウスヒト云意ニイヒカケタリ。

むきかさの

アメ雨ソラツキ

○天ノ形ハ蟄モサゴノ肉ノマロクムナシキ

冠

緯

部

ニ似タレバ、タトヘテ蟷形（ヒサカタ）ノ天ト云ナラント縣居翁考フレタリ、光ノドケヤハ空ヲ省キタルニ、

毛部

ちとせ
○トモビヘニ
○イッシヨニ

ちろし
○脆ヲヨム、俗ニ同シ、

もちゝ
○專ラ、かざし抄ニフツト狩シタリ、ヨクアタレリ、

ちどく
○悸ヲヨム、ソムキモト

ルニ、思フヤウニナラヌノ意、次ノモドカシヲ合セ考フベシ、

ものゆゑ
○カクセントト思テモサウハナラズ、俗ニジレツタイト云ニ似タリ、

ものふるた
○オモテニアラハレズ奥ニコモリヲル意、歌ニハ此風雅集ノ定家ノ外ニ見アタラネド、文ニハ見ユ、夕貞ノ卷ニものふるくおき方ハおくれて、椎本ニ耳なれぬけうやらうんいとかの沿くおかしナドアリ、

ものゆゑ
○モノデモナイノニト訳スベシ、サウハアリサウモナイモノヂヤニト云フヲアトニソヘテ見レバ、ヨクワカルベ

ものゆゑは
○ニ文字ソハルトキハ、普

通ノ故ノ意トナル、

あのあらなづら

○モノニアリナガラ

○ニアノ約ナリ、

ち〜

○俗ニ云モシソレニテ

ハナキカナド云モシ

ナリ、

ち〜ふき

○百千鳥ニハサマザマ

ノ説アレド取ルニ足ラズ春鳴ク諸鳥ヲ云ナリ、

ちずれくさぐき

○鵑、一名鶯、和名毛受、

○草ゲキハ、顯昭ノ説ニ

クサクヾリノト云ヘ

ほるゝ〜ぬ花をもとめあとまろこめ袖ゆるふと〜きまそうれ

ちぐのやどのもの〜ぬ〜ぐ〜ぢちゝをだえゝをとゞめざうれ

ひてもふきかづゝきゝをふゝゝれどわづゝゝ〜さ〜かさんか絶し

ふゝす〜まもやゝとあづむれどまぶけともふきなどの音かれ

ちゝちどるさゝ〜ぢるまちすめじふけゝゝゝれどもわれぞふゝゆく

あさわむすずのふぐきゝゝえねども我はゆゝん君ぞけゝうい

くれてゝ〜秋ぐの笛せくるゆ〜いつくあゝゝんもずのふぐき

り古事記ニ血自手股瀦出云々剖瀦云トアリ、クキハクヾリノ古言ナルヿ之ヲヨテ證スベシ、

冠辭〻部

ものゝぬの

ヤツウヂ川

ウヂ川

ヤツトモノヲ

○千ハヤ人ト云ニ同ク、宇治ハイヅ(稜威)ト云意ニテ、イヅトカ、リタル人、イヅトウヂト通ス、ヤツトモノヲハ諸臣ヲサシテヨメル歌多シ、故ニモノヽフヲ冠ラセシ之、

りミぢ葉の

スギニシ

○木ノ葉ノ散リ過ルヲ、人ノ此世ヲ過キ去ルニタトヘタリ、

り〜志きの

すホミヤ

○百ノ石城ノ大宮トカケタルヽ、大内ノ「ヽ」後ニハ百シキトノミ云ヘリ、

世之部

せゞし

○狭ヲヨム、今云セマシ、

せふ

○せハ狹く道モセニ塞モセニナド。セニハセマキホドニト云意。

せふ

○錢之瀬ニツカネタリ。

せど

○万葉ニ。湍門迫門トカケリ。海ノセバマリタル所ヲ云。又農家ナドニテ裏口ノ方ヲセドト云ヘリ。背門ノ義ノトゾ。

せぎり

○瀬切ニテ。瀬ヲ横ギル波ヲ云トイヘド受ケラレズ。瀧ノセギリトモ云ヘバ。波ノ岩ナドニフレテ散リ碎クルヲ云フラン。

せめぐ

○閑ヲヨム貴谷ムルノ意。此古今ノ歌ヲ。遠鏡ニナゼ不足ニ思フタ「デアラウト」訳サレタリ。

せ先て

○サシツマリテ之。セマリテノ意。金葉ノセメテモヲシキハ。シヒテノ意ト聞ユカヽルセメテノイヒブリ物語ブミニ多シ。

すがる

○其モノヲタヨリニスルヲスガルト云。枝ニスガルナドモ云ヘリ。

すぐる

○後世庶ノコトヽスルハイタク誤レリ。恨我蜂(シガハチ)一名細腰

蜂（コシホソ）ノコヽ腰細ノスガルヲト女ナド古クヨメルヲ見テ思フベシ。

すゞろく

○無因拠ノ略語。今俗ニスゴロクト云ニ似タリ。

すゞく

○群レ集マルヽ。

すれども

○即ノ字ヲヨム。スグヨギニナド訳スヘシ

すげて

○今モ緒ヲスゲル柄ヲ

万 んるはゆふぐれのやまがらすのこゑやうひやうとあるに

佐ち ひとりうきまくら中暑すゞの根のさがれすゞちをとこをあれつきくる暑

壬ニ こゞるふすゞくかをづも春くるるこゞくまちのゞるあくふ

癸 ちさとゝぬされへのたちの来るびくくすゞくるちゞのたゝのひぎふ

万 かくまくちあれきるふゆちまぐあふゆちとあひしふくるんかも

六 ちくくすれちぐとふ考る為ちくもろむゞきわろれろうちを

古 こやくちぐひゞきかくるかくゝ琴ハ法のをすげて涼ひきける

スゲルナド云ヘリ。

六 谷のえいくちるバ又すすげかくゝ絶まの中ちかくゝ先きゞ邪

すゞし

○凄々。又凄然トカク。モノスゴシト云ニ同シ。

すこし

○俗ニ同シ。

山家 タくれやひそくの家を秋ゆけバ先ぐゝ中ゆる山路のちるゝ

九 すさまかふ咲るもけるくくさくもいせをぶ有るる

廿四 とりてる見バいとぐあるひもきるやとすくゝ色めけ梅のそうを

廿七 都うて月をけりれとろひゝハ影くもあくぬすさびあり久るる

廿八 すゞろもちでちるゑよとそのさくびう孔雀のさゝ衣月くくつ影

廿九 山ゆの風ちさくもゝ沈タ多ふちのた気をてものぞかふゝき

すさゞ

○スサブハスヽムニテ。風吹ススビナド云ヘリ。手スサミロスサミハ。手スヽミロスヽミノ義ニシテ。ワザヽヽセヌノ意ヽ。

すさまし

○荒涼ヲヨム。モノスゴ

クゾツトスルヲ云。枕風草紙ニすさまじきものの昼ほゆる犬春のいらゝ」ナドアルトハ別ゝ。

すさめぬ

○不受ノ義ゝ。駒モスサメヌハ飼ヒタガラヌナリ。

すきゝ〳〵す

○田ガヘスヲスクト云。スクフノ義歟。

すゝやく

○スミヤカヲハタラカシタルゝ。スミヤカレハイソガレノ意。

すゝろ

○何トナシニ〻。スゾロ

大芸 大芸者の表のわくさあらのあれバとゆもすさめぬかゝる人ゆゑ

月 山ゑゝ人もすさめぬさくゝむいとくれわびそられこそやさん

七 蕊を回をあゝすきかつしくゝてもひとるゝをとそゝろやるえん

四 雪をわゞろふゝろハちるやいろゝのゝすゝやうれ

月清 けゞろのゝとの甲人いゝ身ゝすゝやゝうゝ山ゝたちびく

秋 あゞりうれ秋いりゝるゝあるのほあバすゞろふすゝかろゝうゝん

アルキハアチナシュアルクゝ。今ソゾロアルキト云ヘリ。

すゝぐ

○濯ヲヨメリ。アラヒスゝグゝ。

すゞ

○小竹ヲ云。雀ヲスゾメトヨブモスゾムレ小竹雖ノ義ナリ。

すゝぞ 艶の

タソガレ時ユフクラマ

○黒漆ノ黒キ意ニテ。ダ

大九 せゝうふれど立ちをぬ身のタさわぎ出ゞろふすゝかれゝ さやあぞ

九 あゞれてもすゝぎやきゝと思れ衣人いきびゝも身うハちゝさじ

拾五 年ゝれど人かゞれゝぬ身のまぢ徒すゞきぢあとゝふゝろゝとあ

壬二 ゝるゝいゝるものすゞ玉ゝ風のあゝもすゝゝき社いきゝゝクゝ

拾五 かゝつゝもやゝ山のすゝうのゝ夕ゝゝ すゞのゝ社色ゝゝのゝちゝくし

冠辞乃部

六 ゝ原漆のゝるゝゝれけのゝゝゝ ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ソガレ クラマナド云 ヒカケタルヽ

すゝのはの

○低岩ノ岸ト来シト同シ声ユヱ云ヒカケタルヽ

雅言解巻四終

明治十二年四月十日
版權免許

定價金壹圓

編纂人 東京府士族 鈴木重嶺 東京麹町區飯田町五丁目二十一番地

出版人 東京府士族 渡部温 東京牛込區牛込白銀町二十九番地

發兌書肆 東京府平民 稲田佐兵衛 東京日本橋區日本橋通二丁目二十番地

渡部温譯述

通俗 伊蘇普物語

全六卷　定價一圓五十錢

此書ハ、グリシヤ國ノ古哲イソップ先生ノ喩言ヲ、村童野婦ニモ解シ易キヤウ、俗文ニテ譯シタル脩身教話ノ冊子ナリ、諸學校ニテ童蒙ノ訓話ニ用フルニ宜シ、

丁韙良著　渡部温訓點

勸善喩道傳

全一卷　定價二十五錢

此書ハ、人ハ天父ノ子類ナレバ、敬天為善以テ其望ニカナヒ、其恩ニ報イザルベカラザル旨ヲ、近ク取リテ譬ヘタル西教ノ道話本ナリ、教道ニ志ス人ハ必ス讀ミ給フベシ、

中田敬義譯

北京官話 伊蘇普喩言

全一卷　定價七十錢

此書ハ、清國北京語ヲ以テ、通俗伊蘇普物語ヲ轉譯シタル、外國語學校ノ教科書ナリ、漢語學ヲ學ブ者ハ、必ズ是ヲ以テ階梯ト為スベシ、

新版 曲亭馬琴戯作序文集

全一巻　定價二十五錢

此書ハ名ニシ負フ蓑笠翁生涯ノ戯作ノ、最モ巧妙ナル序文ノミヲ集メ、和文ノ作例トナルベキ者ナリ、

男女之義務

全一冊　定價六十五錢

此書ハ米國骨相學大博士ファウラー氏ノ著ハセル、クリエチフエントセキシユアル、サイエンスヲ譯シタル者ニシテ、男女精神ノ愛交媾ノ要、孕胎ノ理ヲ論述セリ、兩性壯年ノ者一讀セバ其益殊ニ多カラン、世間猥褻ノ書ト同樣ニ看過シ給フ勿レ、

雅言解

全四冊　定價壹圓

此書ハ、雅言集覽和訓栞ノ類ニシテ、以呂波ノ順ニ集メ、倭歌ヲ引証トナシ、俗言ヲ以テ解シ易キ樣説キ明シタルモノナリ、